

情報・システム研究機構 教育研究評議会（令和5年度第5回）議事要旨

日 時： 令和5年10月20日（金）15：30～17：30

形 式： 情報・システム研究機構会議室及びWeb会議

出席者：木部暢子評議員、篠崎資志評議員、高木利久評議員、永田敬評議員、
福井学評議員、BENTON Caroline F. 評議員、
喜連川優評議員（議長）、椿広計評議員、中村卓司評議員、小酒井克也評議員、
中野美由紀評議員、野木義史評議員、黒橋禎夫評議員、花岡文雄評議員、
仙波秀志評議員、中川健朗評議員、伏見信也評議員、荒木弘之評議員、
堤雅基評議員（極地研）、相澤彰子評議員（情報研）、川崎能典評議員（統数研）、
仁木宏典評議員（遺伝研）

オブザーバー：村上雅人監事

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

○議事に先立ち、議長より本会の成立要件の確認があった。

○議長より、令和5年度第2回～第4回議事要旨の確認が行われた。

議 題：

【審議事項】

（1）情報・システム研究機構長選考・監察会議委員の選出

議長及び小酒井評議員より資料1及び机上配布資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。

（2）情報・システム研究機構組織運営規則の一部改正について

小酒井評議員より資料2-1～2-4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

【報告事項】

（1）研究教育職員に係る人事異動等について

議長より資料3に基づき、研究教育職員に係る人事異動等について報告された。

○ ROISの新たな挑戦シリーズ 第1弾（国立極地研究所）

野木国立極地研究所長より資料に基づき、研究所における取組み及び新たな挑戦等について発表された。

(意見概要)

○昨今の急激な気象変動に関し、国際的な連携や研究プロジェクトの動きはあるか。
→現在その形を作っている段階。各国が使っているプラットフォームやアセットを有効に使っていくことを始めようとしている。

○人材育成に関して、極域観測にコミットメントでき学生はどのくらいいるのか。また、派遣にかかる制約等について大学の仕組み上工夫できるものがあればご教示いただきたい。

→今年も総研大の学生が南極観測に参加するが、準備期間も含めると1年近くと長期になることもあり、毎年夏期間で1～2名という状況。また同行者としてではなく隊員として参加するには、雇用関係を結ぶ必要がある。一時的にでも雇用して正式な観測隊員として派遣できるよう工夫していただくなどの柔軟性が大切。

○極域研究における国際協力の分担について、国ごとの強みやどこに力点を置くかなどどのような研究戦略があるのか。

→SCAR という南極の科学委員会があり、その中でプラットフォームをどう使うか、不足している観測データをどのように連携して取得していくかなどターゲットを見極めて国際的にコーディネートしながら議論を進めている。

○極地というプラットフォームに集結して研究観測などをやるという手法の方が異分野融合や新分野が生まれやすいのではないか。

→たとえばミサワホームが南極観測に継続的にコミットする中で南極にプレハブを建設したといった事例もあるが、産学連携についてはもう少し開いた形で進めていきたいと考えている。

(次回の教育研究評議会の日程について)

・次回の教育研究評議会は、令和6年1月19日(金) 15:30から開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・前々前回議事要旨
- ・前々回議事要旨
- ・前回議事要旨
- ・【資料 1】 情報・システム研究機構長選考・監察会議規則
- ・【資料 2-1】 情報・システム研究機構組織運営規則の一部改正について
- ・【資料 2-2】 データサイエンス共同利用基盤施設人工知能法学研究支援センターの設置について
- ・【資料 2-3】 データサイエンス共同利用基盤施設（DS 施設）の組織改編「人工知能法学研究支援センター」の設置計画
- ・【資料 2-4】 情報・システム研究機構組織運営規則（新旧対照表）
- ・【資料 3】 研究教育職員に係る人事異動等について